

ハーエンキルヒエン=ジーガーツブルン

2018年8月20日

TRACE32 : Wind River VxWorks 653 向け JTAG デバッグサポートを提供

ローターバツハ社は、ウインドリバー社の ARINC 653 準拠プラットフォームである VxWorks 653 マルチコア・エディションに対応したフル JTAG デバッグサポートを発表しました。これには、ARM、Intel、Power Architecture マルチコアプロセッサに対応した最新版 VxWorks 653 マルチコア・エディションも含まれます。

ウインドリバーのゴールドパートナーとして、ローターバツハ社はウインドリバーのオペレーティングシステムの発売と同時にサポートすることを約束してきました。そのため、ローターバツハ社はウインドリバーとの密接な協力のもと、TRACE32 を VxWorks 653 システムに合わせた包括的なデバッグ環境に拡張しました。

VxWorks 653 は、ARINC 653、VxWorks、および Wind River Linux などの複数のゲストオペレーティングシステムをサポートし、異なる安全性とセキュリティのクリティカルティにおいて、独立して実行できる仮想化プラットフォームです。ハードウェアデバッガを使用してマルチ OS、マルチパーティションシステムをデバッグすることは複雑な作業です。デバッガ（および開発者）は、システム内の任意の場所に変数にアクセスしたり、ブレークポイントを設定したりできるように、アクティブなパーティションを把握し、非アクティブなパーティションにアクセスする方法を知る必要があります。

VxWorks 653 向け TRACE32 は、すべてのパーティションとそのメモリ構成を検出できます。デバッガは、コアにおいて現在アクティブであるか否かにかかわらず、仮想化レイヤだけでなく、作成されたすべてのパーティションとゲスト OS 環境にもアクセスできます。TRACE32 は仮想アドレッシング方式を拡張し、どのパーティション内のどのアドレスでも独自に識別できるようにしました。関数または変数のシンボルは、独自のアドレスにバインドされているため、開発者はデバッグシンボルにアクセスするだけで、システム内のすべてに同時にアクセスできます。

VxWorks 653 の各パーティションには、VxWorks や Linux などのゲスト OS が含まれています。TRACE32 は、各パーティション内の複数のタスクリストやその他の OS オブジェクトの表示をサポートし、同じゲ

スト OS の複数のインスタンスを実行している場合でも、すべてのパーティションを同時に表示することができます。これらの TRACE32 JTAG デバッグ機能は、I / O ポートへのアクセスを制限し、テストハードウェアではなく、実生産されているハードウェアプラットフォームをテストして、認証を取得する必要がある安全性とセキュリティが重視されるシステムに最適です。

ウインドリバー社の VxWorks 653 プラットフォームと共にローターバッハ社の TRACE32 を使用することで、開発者はハイパーバイザやすべてのパーティションを含む、すべてのパーツにいつでもアクセスでき、システム内のコードをいつでもデバッグすることができます。この機能はすぐに利用可能で、TRACE32 の標準ソフトウェアに付随しています。

LAUTERBACH, TRACE32 μ Trace and other LAUTERBACH products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of LAUTERBACH. All other product and service names mentioned are the trademarks of their respective companies.